

も、それだけでは受からないように

意図的に選考していたのではないかという声が上がっていたためです。

この判決が、今後の入試と大学にどのような変化をもたらすのか、非常に興味深く思っています。

楓之典君乳母草子

（日々是猫日） 其ノ陸

猫の身体―胴・脚・尾の巻

中條 恵子 陸自85

其伏臥時、團圓不見足尾。宛如堀中之玄壁。其行歩時、寂寞不聞音聲。恰如雲上黑龍。

性好道引暗合五禽。常低頭尾著地。而曲聳背脊高二尺許。毛色悅澤盖由是乎。亦能捕夜鼠捷於他猫。

其の伏臥する時、團圓して足尾見えず。宛も堀中の玄壁のごとし。其の行歩する時、寂寞として音聲聞こえず。恰も雲上の黒龍のごとし。

性は道引を好み五禽に暗合す。常に頭を低くし尾を地に著く。而るに背脊を曲聳せば高さ二尺許りなり。毛色は澤蓋の悦しきこと是由るや。亦た能く夜鼠を捕らふること他

猫に捷る。

『寛平御記』

宇多天皇に溺愛され、その姿、たゞずまい、動きをたたえられた猫様ですが、その身体能力の高さと特性は、「年を経て化ける」「人を食う」「尾が二股に分かれる」「踊る」などなど、怪しく恐ろしい説話にもなっています。

● 猫の身体

しなやかな美しさと機能性を併せ持ち、突進や跳躍などの運動能力も高い猫様の身体。尻尾や肉球などの愛らしさは格別ですが、その機能を知るといとは魅力的に見えてまいります。

○ 骨

猫様の骨格は、獅子などの大型ネコ科動物とほぼ同じで、肉食動物特有の運動性や柔軟性に優れた構造となつています。骨の数は、約200本あるヒトより少し多めの240本ほどで、ヒトとは異なる特徴がいくつかあります。

例えば、腰骨がヒトより2本多いために、柔らかく腰をひねることができ、高所からの着地に役立っています。また、肩甲骨が縦方向についているため、頭の入る隙間であれば通り抜けることが可能です。小さい

ながらも鎖骨があるので、前脚を内側に曲げて幹に抱きつくことができ、木登りもお得意です。もちろん尻尾を支える尾椎はヒトにはない骨です。

○ 被毛

猫様の被毛は、一つの毛穴から上毛と下毛という少少太めの毛と下毛という細い毛が複数本ずつ生えています。上毛は主に身体や皮膚を守り、下毛は防寒の機能を果たしています。ともに異しう柔らかいのが特徴ですが、撥水性は高くありません。

寒暖に応じて毛量を調整するため、年2回の換毛期には驚くほどの毛が抜け、冬毛と夏毛が生え替わります。庵には綿毛が舞い、衣服に積り、いと風流な日々にごさいます。

○ 脚(身体の柔軟性と共に)

猫様の運動能力は世に高く、のんびりお過ごしの時も、ここぞという場面では抜群の身体能力を発揮します。しなやかな身体の伸縮はもちろん、柔らかく優秀な脚の筋肉も見逃せません。身体の特徴は跳躍力や突進力に生かされていて、常時つま先立ちで歩いていることも瞬発力の源になっています。

柔軟性がある身体と筋肉、特に後ろ脚の弾金を生かした跳躍は、鼻先からお尻までのおよそ5倍にあたる1・5メートルほどにも達しますし、突進すれば瞬時に時速約50キロに加速します(長距離走は得意ではなく、最高速度の維持は10秒くらいが限界です)。

また、ヒト同様に利き手(前脚)があるのですが、利き足(後脚)はありません。狩や敵から逃げる際には一瞬が命のため、どちらの脚からでも走り出せるようになっていのです。利き手は、男君は左、女君は右であることが多いようです。

○ 肉球

ぶにぶにと柔らかくて可愛らしい猫様の肉球。実は様々な役割を果たすといと多機能で優秀な部位です。柔らかさに加えて汗腺が緩衝・静音・滑り止めの働きをしていて、狩においては密かに獲物に近づき、急な方向転換もお手のものです。洗顔時には、肉球をなめては被毛の汚れや髭の湿り気などを上手に取り除いておられます。

肉球の外側は角質層で覆われ、内側には脂肪を含んだ弾性繊維が網目状になって存在しています。表面は

滑らかですが、固さは猫様によりまちまちです。肉球の色は毛色や生活環境によって異なり、桃色や黒などがあります。

多くの猫様がお厭ひになるので、猫飼いはお触りの誘惑を常に辛抱せねばなりません。

○ 爪

出し入れ可能な猫様の爪は、普段は靱帯の張力により埋没していて、腱を後ろに引くことで出現します。爪をしまっておくことで足音がせず、獲物に忍び寄ることができるのです。

内側に新しい爪が伸びてくると、猫様は爪とぎをして古く丸くなった鞘状の外側を剥がします。頻繁になる爪とぎは、お手入れのほかに印付けや寛ぎの効用がごさいます。

○ 尾

猫様の尻尾は、走る時や跳躍時に平行をとり、不安定な場所でも体勢を安定させる役割があります。また、感情が現れる部位でもごさいます。猫様はもともと長い尻尾をお持ちでした。短尾や無尾は、遺伝的要素や突然変異により生まれたとされ、尻尾の骨(尾椎)の数自体が少ないようです。尾が途中で折れ曲がって

いる猫は「鍵しっぽ」と呼ばれ、幸せを引つ掛けてくると言い伝えられています。

● 楓之典君のつぶやき

——日々跳躍に励みて踵にタコを褒められた也 ——



寄贈図書等の紹介

佐藤 正 陸自78

角田療著『陸軍将校たちの戦後史』

角田療氏は立命館大学に籍をおく新進気鋭の社会学者で、陸軍将校たちの戦後史を主たる研究対象にされています。偕行社には何度も足を運ばれ、私も数回お会いしましたが、研究に対する真摯な態度はもとより、その折り目正しい姿勢にはいつも感心させられました。祖父君が陸軍将校だったというのも肯けます。角田氏は、軍隊経験者の戦後史の先行研究を調べていく過程で、旧陸軍のエリート軍人たちの戦後史が十分に検討されていなかったことを発見し、それに焦点を当てた戦後史を明らかにしようと試みたのが本書です。その際、元陸軍将校の集まりで